



第12号(平成26年7月15日)

## 哲学は遺言書

私は哲学が好きだ。哲学はある意味、遺言でもある。

街づくりにも哲学が必要である。哲学に乏しい街は、どこことなくうすら寒い。単なる人工物とし映らない。哲学の解釈は多岐に渡る。だが、多岐に渡った解釈を一つずつ削いでいくと骨太の心理が横たわっている。人間の尊厳、生きるべき示唆、命の恐れ…大げさに言えばこんなことになる。

一方、悠遠な課題だけに、様々な論法が成り立つ。言いたい放題、勝手気ままというのも哲学である。上から見て、下から見て、それだけでは飽き足りない。横からや斜めから見ても構わないという感覚である。要は、うがった見方も容認してしまうわけである。

たとえば月を見る。私の傍らの女がこう言う。「今夜は満月よ、夜空をあんなに輝かせているわ」とか、「今晚の三日月ってとてもきれい。ムードがあって、しかも神秘的。私、三日月を見るのが好きよ」なあって。冗談じゃない。だが、答えは一つである。

改めて女を見ると、そこそこ美形だが、薄っぺらである。顔に塗った表装を一枚剥ぐと多分正視に耐えない。さらによく見ると、どこかしら目が濁っている。傍らの女に限らない。

人はさまざまに月を見る。月はいつだって満月である。三日月や半月は、そう見らされているだけに過ぎない。

さてさて、街を見る。機能的、合理的、利便性の高い建物がたくさんある。しかし、創作者の心意気が伝わってくる遺言的な建物は数少ない。私を痺れさせてくれる哲学を感じさせない。

現在を生きるため、やむなしと理解しているが、自分の住む街が面白く、誇らしく、心底愛せるには「何か足りない」と、つい口に出してしまう。

哲学を理解しにくい人物を列記してみよう。官僚、政治家、経営者、文化人、学者、経済評論家…加えて哲学者。概ね、世に害を流している人物が多々含まれていることが分かる。

方や、哲学を理解しやすい人物（それ以外も含む）を列記してみよう。子ども、老人、動物、植物、昆虫…加えて種田山頭火のような人物。

どうだろう、頷けるであろうか。

仮に、建築物の連鎖が街づくりなら、そして創作者並びに関与した人々の大なり小なりのモニュメントが街づくりであるなら、もう少し違う作り方があるのではないか。

自分が生きた証を、自分の生き様を大地に記すには、もっと厚い知恵が込められた大胆（精神的に）な表現があってもいいのではないか。街を哲学にして欲しい。街を遺言書にして欲しい。

街づくりに関わる人たちには、この土地に自己を総決算する生涯の楔を打って欲しい。私は、街を歩きながら、こう何度か叫んでいる。

再度、記す。私は哲学が好きだ。学生時代、一般教養科目で唯一「優」をいただいたからであろうか。

第17号(平成27年5月15日)

## 三つの「か」

こともあろうに、学生時代の私は数学のゼミを受講した。小学校の算数以来、まったく数字に無縁だった私が、である。

受講動機は判然としない。ふらふらっと気がつけば受講生の一人となっていた。これはもう、

トラウマを超えて怨念を数字に抱いていたせいだろう。

数学ゼミの聴講生は八人であった。唯一の参考書は電話帳ぐらいの分厚いやつで、しかも英語で書かれていた。おぼろげに講義内容は集合に関する事だだったと思う。

私はゼミの時間が苦しかった。数学はまったく分からず、英語も幼児なみ。悲惨なのはそれだけではない。参考書代が高くて、買えなかった私だけが手ぶらで講義を受けている。教師の視線は冷ややかで、学生仲間は無視を決め込む。当然、結果は押し知るべしである。

四、五回の講義を青い顔をして受けた私は、早々に挫折した。この場に最も不釣り合いな人であった。その後、数学者矢野健太郎の本なども精読したが、今もって距離は縮まらない。数学と言え、辛く悲しい思い出しかない。

それでも私の記憶に残ったことがある。数学の答には二通りあるといった教師の言葉である。一つの答えが「解答」。もう一つが「可」だという。

数学に二通りの答えがあるという話は斬新だった。「解答」は正解だが、そのほかに答えはないのか、本当に一つしか解答がないのかを探るのが「可」という考え方だった。まさに山に登る考え方である。答えを一つと決め込まずに、可能性を探っていく。それが「可」なのであろう。

昨夏、広島市の安佐南・北区で甚大な被害をもたらせた土砂災害が起こった。いわゆる想定外というやつである。ひょっとしたら…かも知れない…という考えが及ばなかった事故である。

確か、建築基準か建築構造で、大雨時の想定があった。一時間で降る雨の量を想定したもので、雨水管を通る水の最大許容量が時間当たり八十ミリだったと思う。この八十ミリ、とんでもない大雨で数十年か百年に一度あるかないかの想定である。

ところがどうだろう。昨今は、八十ミリどころか百ミリを超える大々雨が平気で襲ってくる。まさに想定外の頻発である。そして、その一つが安佐南・北区の災害に繋がった。

八十ミリを超えれば、本管の送水も受け入れが困難だろう。また、溢れだした水の制御は効かないだろう。

雨が八十ミリを超えることは稀である＝解答。

雨が八十ミリを超えるのは百年に一度あるかないかである＝可能性。

よって、八十ミリを超える雨を考える必要はあるかも知れない＝かも知れない。

私は、街づくりには三つの「か」が必要だと思っている。「解答の・か」「可能性の・か」「かも知れないの・か」。三つの頭の文字を取っての「か」である。特に最後の「か」をどう考えるかが近年肝要となっている。街づくり「三・か・条」とでも記せば、何人かの記憶にとどめてもらえる気がしている。

さて、今年も雨の季節が近づいている。空を漫然と見上げているだけでは答えは見つけにくい。

第25号（平成28年9月15日）

## 欲しい 広島現象

数年前だったか、「おいしい 広島県」なるコピーが登場した。

このコピー、なかなかの優れものである。おいしい——から浮かぶ文字は「惜しい」であろうし、「美味しい」「欲しい」などの言葉も連想させる。更には、額面通り、広島はちょっと足りないものがあるけど、いいところだよって謙虚さも込められている。一歩下がりがながらも、主張すべきところは堂々と表明する、広島の良さ、広島人の優秀さを感じさせる文言といたく感心した。

昨今、岡山現象という言葉があるらしい。関東を中心に県外の人々が岡山に移住する傾向を現

したもので、延べ千人を超えるというから、現象といっても咎(とが)められない。この現象の起因は、東日本大震災並びに福島原発の放射能流出に依るものが大半である。

将来に不安を抱えて子育ては出来ない、原発リスクを避けたい、地震の心配が殆どない、東京までのアクセスが良い、等々の理由が重なって岡山が注目され、次々と永住希望者が流入している。それも岡山市とか倉敷市などの都市ではない。人口減少が著しく、未来には消滅の可能性が強い町とか村といった「岡山の田舎」への移住である。これ、まさに地方創生の変型版とも見てとれ、また、自主避難とも位置づけ出来る。

岡山に居を移したからといって簡単ではない。定住する——と覚悟を決めたにもかかわらず、新しい環境、隣人との付き合い、仕事の確保など課題は多い。都市の利便性を捨てたものの、過去と釣り合わない現実が実に多く横たわる。次々と直面する課題は容易に乗りきれず、撤退の憂き目にあう家族もそこそこに上っている。

だが、だが、である。同じ中国地方に位置する広島と岡山はどれほど違うのであろう。東京及びその周辺の人たちから見て、広島は魅力に乏しいのであろうか。

確かに、災害のみを比べると、後ろ向きの全国ニュースで岡山が登場することは少ない。避難民＝岡山定住希望者の気持ちを慮(おもんば)かると、広島はやや分が悪い。その辺りも心的影響を及ぼしているのだろうか。

広島にも幾多の魅力がある。複数のプロスポーツ、平和の原点なる世界遺産、海上に優雅な姿を見せる宮島、ふんだんな海の幸……人だって悪くない。現象というなら広島に波及してもいいと思えるのに、今のところは聞かれない。温暖な気候に育まれた広島人気質は、他県に劣るはずがない。それでも岡山ほど注目されないことに残念を覚えてしまう。

何が広島現象を生まないものであろう。何が岡山に劣っているというのか。私ごときが御託を並べても始まらないが、多分、些細な「物足りない」が枝葉のように折り重なって、広島の魅力を見えにくく、捉えにくくしているのではなかろうか。

街づくりの基本的な考えに、こういうものがある。

一 今あるものは何か、今ないものは何か 二 今後つくられるものは何か、今後もつくられる予定のないものは何か 三 これから欲しいものは何か、これからも欲しくないものは何か……要るもの、要らないものを整理して考える、マトリックスである。要と不要、二分すると理解しやすい。素直な気持ちで一つずつ検証し、解消し、現実化する。住みやすい街に近づけていく考えである。

広島も人口減少を免れない。長い先行き、減退の可能性を強めている。減退を回避するには、出生率のアップと永住者を増やすこと。概ね、分母の増加が前提であろう。しかし、答えは簡単でもアプローチには知恵が要る。

広島に住んで欲しい、広島に永住して欲しい——都市創造に取り組む人たちの使命がここにあるように、岡山と違う広島現象を巻き起こすためには知恵が必要になる。現象は一過性だが、知恵を加味して連続性に結びつけねばならない。

**欲しい、広島現象**——広島らしい広島現象が創出されるのを期待し、待ち焦がれる一人に私がいる。

第33号(平成30年1月15日)

## 三つ目の不思議

先日、岐阜に出掛けた。長良川の鶺鴒、信長ゆかりの金華山などがある所である。こういった現地の見所を徘徊し、引き続きふらふらしていると「岐阜大仏はこちら→」なる小看板が目にとまって足を振り向けた。

そこは、正法寺という寺だった。中庭に伴天連風の建物があり、その中に岐阜大仏が収められているとのこと。入場料二百円を払って入ると、当然ながら岐阜大仏が厳かに鎮座。説明では、高さ十三・七メートル。木材で骨格をつくり、仏像の形は竹材を編んだ「籠大仏」で、漆と金箔で仕上げられた珍しい大仏とある。また、日本三大仏の一つで、県の重要文化財に指定されているともあった。

これらを目にしながらか、小さな疑問がわいた。これが三大仏の一つなら、残り二つの大仏はどこであろうかという疑問である。

すぐに浮かぶのは、奈良東大寺の大仏、続いて鎌倉の大仏であろう。この二つは小学生でも分かる大仏のワン・ツー。だが、気になったのが三番目、つまり、この岐阜大仏の存在である。

広島辺りの人は余り御存知ないと思うが、東京にも大仏がある。ずばり、東京大仏といって、なかなか見応えがある。因みに、所在は東京都板橋区にある乗蓮寺。高さは、十二・五メートル。岐阜大仏よりは、ちょっと小ぶりである。

私は一度、東京大仏を見学しており、確かここでも、日本三大仏の一つとして説明に書かれてあったのを記憶している。すると、三大仏と銘打った一つが岐阜大仏、もう一つが東京大仏なら、残りの枠は一つ。奈良東大寺の大仏か、鎌倉の大仏どちらか一つで、残った一つが三大仏から外れてしまうことになる。

それはないだろう。奈良や鎌倉の大仏が外れるなんて。この疑問——暫く頭から離れなかった。

翌日は、下呂温泉まで足を伸ばした。名古屋駅で行き先表示を見ているうちに、なんとなく魅かれたからである。

私は温泉好きではない。言い切れば、風呂の類が好きになれない面倒な人間である。それでも下呂温泉の名前ぐらいは知っている。温泉天国の日本にあって、名湯の一つに数えられているからだ。

電車で揺られること二時間余り。多治見、美濃太田で乗り換え、やっとかさ下呂の駅に到着。温泉街に向かう橋を渡ると立て看板がかかっていた。見ると、下呂温泉は日本三名湯の一つと書かれてある。

三名湯——そうであろう、私でも知っている温泉地である。だが、やはり残りの二つはどこかという昨日同様の疑問が蘇った。

最初に浮かんだのが、群馬の草津温泉。続いて伊豆の熱海。更に松山の道後温泉、大分の別府温泉、それらが頭の中を走っていく。うーむ、分からない。

宿をとって女将に質問を試みた。三名湯のことである。即座に戻ってきたのが、「下呂は、草津、有馬と並んで三名湯に数えられている」という返事であった。私が思い浮かべた熱海、道後、別府が外れていたのである。

「日本三大△△」の定義はあるのだろうか。誰が、認定しているのだろうか。

岐阜の三大仏、下呂の三名湯、この二つの表示から知ることは、三大仏、三名湯とだけ記されており、残り二つが明記されていない。つまり、見る者をして残り二つを「勝手に想像しなさい」という言い訳と配慮がなされていることだろう。

翻って、広島には世界遺産が二つある。原爆ドームと宮島、すぐさま想起出来るこの二つは広島イメージに直結する。

しかし、原爆ドームを、三大△△と称するには無理がある。これ自体が痛ましい人類の足跡であり、まったく別個のものと考えねばならない。

一方の宮島だが、これは三大△△の括りが許される。

かつて宮島は、松島、天橋立と並び日本の三大名勝地と称されていた。だが、今は世界遺産との位置づけが強く、松島や天橋立と並んでイメージすることは少なくなったように思う。それでも「三」の括りはしっかりと記憶されているだろう。

私のこだわりは、この「三」である。明確にベスト3に入らなくても、三大名物のように、「そうかな」「そうかも知れない」と思わせるものが、どれだけあるかどうかということである。

ここら辺りに、街の面白さ、懐の深さがあるように思える。別な言い方をすれば、小さな発見、意外性との出会い、そんなところか。広島の一、二に多くを依存するばかりでは、街の魅力は行きつく。

三を強調したが、実は、三には幅が隠されている。四番目だって、五番目だって、構わないという許容。正確には三番以内に位置するものでなくたってよい。適当に楽しめるもので、新鮮な興味を引くものなら充分という考えである。

日本全国どこの都市でも、未来を見つめて様々な試みがなされている。それらの多くは、個人に照準を合わせ、体感、体験するものが随分と増えている。箱物との訣別、過去の執着への訣別、新たな三の模索であろう。

三は、多いほど面白い。その町が好きになり、再訪の気持ちをくすぐっていく。弾力的な思考を有する若者たちが、新たな「三」を創出して、広島を楽しくしてくれることを、期待するのは私だけだろうか。